

第3章 作業学習の改善事例

第3章では、広島県立特別支援学校の作業学習の改善事例等について紹介します。

- 1 豊かにたくましく生きる力を育てる作業学習（食品加工）
- 2 専門的な知識・技能等を有する講師を活用した洗車作業
- 3 働く意欲を高める紙すき（年賀はがき作り）作業
- 4 人間関係形成能力を育てる作業学習の取組
- 5 主体的な動きを引き出す作業学習（農業グループ）
- 6 外部人材を活用したビルメンテナンス作業
- 7 作品づくりから製品づくりへの転換
- 8 自主性と社会的スキルを育てる作業学習の取組
- 9 関連をもたせた作業学習



1 豊かにたくましく生きる力を育てる作業学習（食品加工）

～主体的な活動を引き出す補助用具の活用～ 広島県立廿日市特別支援学校

1 改善のポイント

- (1) 生徒一人一人に応じた補助用具の活用に取り組みました。
- (2) 「サービス業」に対応することを考慮し、接客サービスの内容を取り入れました。
- (3) 製品の完成度を高めるために、試食後に当番が「味のチェックシート」を記入し、次の授業で改善点を確認して作業を始めることにしました。

2 これまでの作業学習（学部食品加工）の概要と課題

(1) ねらい

作業学習では、学部縦割りで、協働作業を行っています。一人一人の生徒実態に合わせた作業内容を考え、役割分担し、協力して生産活動を行っています。社会的な学習の場であり、“後輩は先輩から明日の自分たちの姿を見ることができ、先輩は各作業グループでの後輩の模範として自らを律していくことができる”と考えています。

食品加工グループのねらいは次のとおりです。「基本的な食品加工技術を習得し、完成度の高い製品をつくる。衛生を意識して作業をすすめる。食品を加工していく中で様々な感覚を用い、感触・においなどを味わう。」

(2) 授業形態

写真A

学部縦割り 生徒13名，教員7名

(3) 作業内容（食品加工グループ）

もちもちパンづくり，パウンドケーキづくり，クッキーづくり，せんべいづくり，プレッツェルづくり，うどんづくり



せんべいの生地を伸ばしています。

(4) 課題

- ・ 生徒実態に応じて補助用具づくりを改善すること。
- ・ 販売する場面は、「はつようまつり」だけであり、接客の練習や製品としての仕上がり具合が実感できる場面が少なかったこと。
- ・ 自主的に準備する姿勢は育ってきたが、製品の完成度を高めることに生徒自らが関わっていく意欲が低かったこと。

3 改善の様子

(1) 補助用具の活用

- せんべいづくりの時に腕の力が弱く、生地を伸ばすことが難しい生徒のために、両手で力が均等にかかる補助用具を作りました。(写真A)
- 包丁の刃が怖くて使えない生徒や、うどんの生地を均一の幅に切ることが難しい生徒のために、安全で均一の幅に切ることが出来る補助用具を作成し、改善を重ねました。(写真B, C, D)

写真B



写真C



写真D



(2) 接客サービスの練習

- 飲食店などでの接客をイメージしてうどんを配膳する練習を行いました。(写真E)。練習に先立ち、地域の作業所で働いている卒業生の接客の様子をビデオで視聴し、実技練習を行いました。 写真E

配膳では、調理室で練習後、来客時や公開研究授業など、機会を逃さず実践練習をしました。



写真F



(3) 「味のチェックシート」の活用

- 当番が試食後、毎回感想や意見を記入し、次の授業の時に読み上げて改善点を確認してから作業を進めました。(写真F)

4 成果と今後の課題

(1) 成果

- 補助用具を活用したことで、今までできなかった作業ができるようになり、担当する作業内容が広がりました。
- 接客に自信がもてるようになり、挨拶の声が大きく明瞭になり、動きも自然になりました。
- 製品の改善を自分たちが行うという雰囲気生まれ、意見も活発に出せるようになりました。

(2) 今後の課題

- より主体的な作業学習ができるように補助用具等を活用していくこと。
- 安全面や衛生面では、包丁等の安全な取扱いや帽子やマスクの着用など、より安全で衛生的な作業をすること。

2 専門的な知識・技能等を有する講師を活用した洗車作業

広島県立福山北特別支援学校

1 作業学習の改善のポイント

- (1) 「サービス業」に対応した新しい作業種目として洗車作業を導入しました。
- (2) 洗車することを「商品」として扱うことの意識付けをしました。
- (3) 専門的な知識・技能及び職業意識を学ぶため、給油所店長（特別非常勤講師）から指導を受けました。

2 作業学習（洗車）の概要

(1) ねらい

- 挨拶や返答，報告・連絡・相談が自らできるようにします。
- 顧客への丁寧な対応，機器類の安全な取扱い，自動車の丁寧な取扱いを身に付けます。
- チームで洗車工程を最後まで行うことにより，持続力と集中力を養います。
- リーダーとしての自覚・チーム（班）の一員としての自覚を高めます。

(2) 授業形態

特別非常勤講師と教師のチーム・ティーチングによる指導を行います。

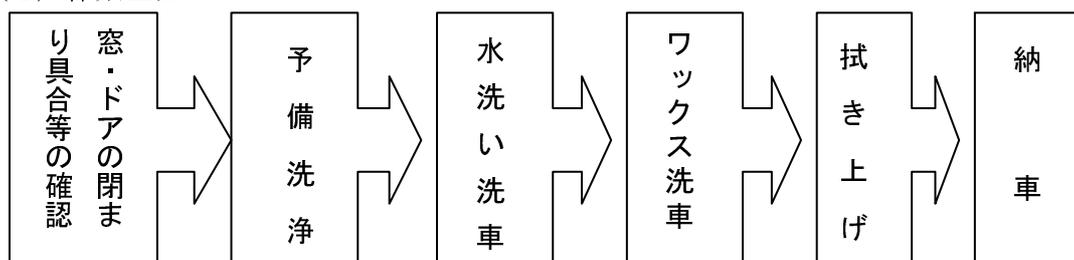
(3) 指導計画

ア 1年次は，基本的な作業内容及び作業手順を学習し，特に「予備洗浄」を重点的に学習します。また，「水洗い洗車」全体の手順についても経験します。

イ 2年次は，「水洗い洗車」に加え，「ワックス洗車」及び「拭き上げ」の習得を目指します。

ウ 3年次までには，地域住民等から洗車の依頼を受け，実習をすることを目指します。

(4) 作業工程



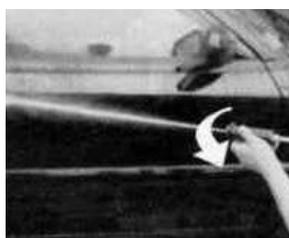
【予備洗浄の工程】

【高圧噴霧（広角）】



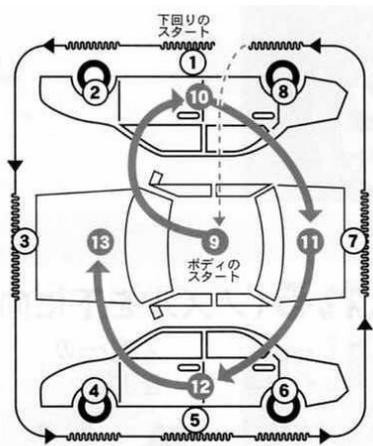
タイヤハウスや
下回りの洗い流
しに使用します。

【高圧噴霧（スポット）】



高圧に注意して、
ホイール洗浄に使
用します。

- ① ホイールに専用洗剤をかけます。
- ② タイヤハウス内、ホイール、ボディー下回りの順で噴霧をします。
- ③ ボディー全体を手前から奥へ、上から下へと噴霧します。



引用 アイ・タック技研(株)

3 成果と今後の課題

(1) 成果

ほとんどの生徒にとって未知の作業でしたが、洗車工程が分かりやすく、手順もパターン化されるので、生徒にとって理解しやすく、意欲的に学習しました。また、言葉遣いや自分の服装に気を配るなど、人と接する態度の向上がみられました。

(2) 課題

洗車は商品であるという意識をより高め、丁寧に作業し、作業中のミスも含めた仕上がり状態を、生徒自ら判断・確認できるように指導していくことが課題です。

3 働く意欲を高める紙すき（年賀はがき作り）作業

広島県立三原特別支援学校

1 改善のポイント

- (1) 生徒が自ら精一杯取り組むことができるように、補助具や道具を工夫しました。
- (2) 積極的に働く態度を身に付けることができるように、個々の目標を明確にし、教師がモデルを示し、言葉遣いや報告の仕方等を意識できるようにしました。
- (3) 製品の品質向上に意欲がもてるように、生徒に分かりやすい目標を示しました。

2 これまでの作業学習（紙すき）の概要と課題

(1) ねらい

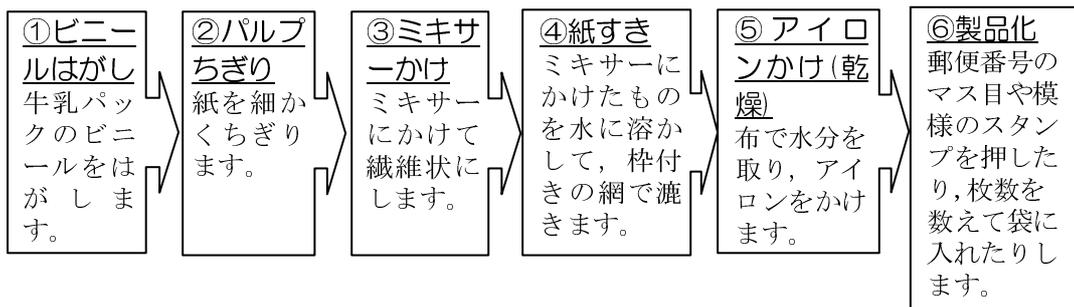
- 分担した作業に積極的に取り組み、社会に出て働く際に必要な作業態度を身に付ける。
- 製品（年賀はがき）の品質向上を目指す意欲をもつ。

(2) 授業形態

生徒8名の分担による分業。指導者は4名。

(3) 作業内容

作業工程と作業内容は次のとおりです。



(4) 課題

- 生徒が分担する具体的な作業内容を明確にし、各作業に分かりやすい達成基準を設けること。
- 職場で働くために必要な態度を身に付けるため、目標の自覚、適切な報告の仕方、言葉遣い等を定着させること。
- 製品の品質向上を目指す意欲をもたせること。



3 改善の様子

(1) 補助具・道具の活用

補助具や道具を工夫して、分担した作業について、「何を」「どのくらい達成すればよいか」が生徒に分かるようにしました。



ペットボトルを半分に切ったもの。この穴を通るくらい大きさに紙をちぎる。



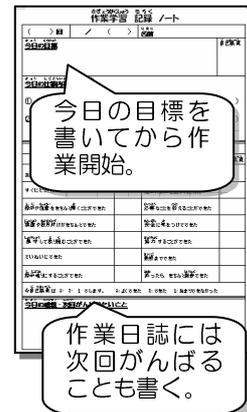
キッチンタイマーで時間を計りながらミキサーをかける。

ミキサーかけは、モーターの加熱を避けるため、ミキサーを休ませながら5回行う。チェックシートを活用して、自分で工程を確認する。

ミキサーかけ (何 日 何 分)					
1・2・3 回目					
1	2	3	4	5	6
回す	やす	回す	やす	回す	やす
	休み		休み		休み

(2) 板書や作業日誌の工夫

目標の自覚を促すことで、積極的にやり遂げる態度を身に付けることを願い、板書で各自の目標を確認し、各自が作業日誌に書き込んでから作業を始めるようにしました。作業日誌には反省とともに次回の目標も書くようにしました。



今日の目標を書いてから作業開始。

作業日誌には次回がんばることも書く。

(3) 教師もともに

教師も生徒と一緒に活動しながら、さりげなく支援するようにしました。教師の態度から生徒が職場に求められている作業態度を理解できるように、報告や挨拶の仕方、言葉遣い等も示しました。

(4) 目的の明確化

よりよい製品づくりへの意欲を高めるように、学校祭で販売することを知らせ、来校者に喜ばれることをイメージしながら作業ができるようにしました。



4 成果と今後の課題

(1) 成果

目標や内容が明確になることで、黙々と集中して作業に打ち込む姿が見られるようになりました。また、報告の仕方や言葉遣い等、作業態度も改善されてきました。意欲的に作業をするようになりました。

(2) 今後の課題

職場実習等で明らかになった生徒一人一人の課題が、作業学習を通じて解決されるよう工夫・改善を重ね、就職を目指していく必要があります。

4 人間関係形成能力を育てる作業学習の取組

広島県立呉特別支援学校

1 改善のポイント

- (1) グループリーダーを置き、人間関係づくりをしました。
- (2) 挨拶・報告・連絡の統一と徹底を行いました。
- (3) 一人一人に応じた教材・教具を工夫し、自主的な作業を目指しました。

2 これまでの作業学習（清掃活動）の概要と課題

- (1) ねらい
 - 清掃活動の作業工程の理解と定着を図る。
 - 清掃道具を正しく、安全に使用できる。
 - 目標をもって自主的に清掃する。
- (2) 授業形態
教育課程の類型別・学部課題別縦割りグループの中での学年単位の小グループ。
- (3) 作業内容
窓ガラス，サッシ，教室内の床，廊下，階段，トイレ，食堂等の清掃
- (4) 課題
 - ① 挨拶・報告，グループ内での言葉の掛け合い，分からない作業の時の相談等が不十分で，仕事としての意識が希薄である。
 - ② 市販の掃除道具では使いにくいことがある。清掃活動は商品が完成するわけではないので，結果が分かりにくい。
 - ③ 日常生活の指導の清掃との違いが不明確であり，その違いが十分に理解できていない。

3 改善の様子

- (1) 清掃作業を新たな作業種目として導入
清掃活動の次の特徴に注目しました。
 - 日常生活の清掃から仕事としての清掃まで，段階的な内容がある。
 - 一人一人に応じた作業工程を設定することができる。
 - 一回の授業で作業が完結する。
 - 校外での委託作業も可能である。

(2) 導入直後からの具体的な改善策

① 連絡・報告・挨拶の統一と徹底

- ・ 「2時です。掃除を終わってください。」・・・全体のグループリーダーによる1年生，2年生のグループへの終了時刻の連絡。
- ・ 「1年生と2年生に言ってきました。」・・・グループリーダーによるメインティーチャーへの報告。
- ・ 「お疲れ様です。」・・・清掃活動中の廊下を通る人及び他のグループに出会った時の挨拶。
- ・ 「お疲れ様でした。」・・・清掃活動終了時，全員が互いに向けてする挨拶。

(3) 教材・教具の工夫



やっったことが見て分かるボード



ペットボトルを利用した窓枠の掃除用具



「そうじをしました」「清掃中」のプレートの設置



(4) 発注による清掃作業の業務化

保健室等から清掃を仕事として発注してもらう。

4 成果と今後の課題

(1) 成果

グループリーダーは，報告・連絡するという責任感をもち，掃除区域をよく覚えるとともに，正確に報告・連絡に行けるようになりました。

作業の進み具合を判断し，仲間を手伝う場面が見られました。作業完了時には，「お疲れ様でした。」と言葉を掛け合い，互いの労をねぎらい，達成感を得ることができました。

清掃終了時には，「そうじをしました」プレートを貼り付け，自らの仕事に責任をもちました。プレートを見た人からのねぎらいや期待，感謝の言葉は，「人の役に立つ」という「充実感」となり，仕事としての意識と意欲の育成ができています。

(2) 今後の課題

学校ではできるのに，実習先ではうまくできない状況を改善する指導や支援の仕方についての検討が必要です。

挨拶や報告・確認ができるだけでなく，社会に出たときに必要となる「困った時にたずねる力」や「周りの状況を把握し，自ら働きかける力」を付けていく指導が必要です。

5 主体的な活動を引き出す作業学習（農業グループ）

広島県立庄原特別支援学校

1 改善のポイント

- (1) 見通しをもって動けるように作業する場所を明確にしました。
- (2) 農事暦を作成し、作業への長期的な見通しをもたせました。
- (3) 少ない支援で作業に取り組むことができるよう、手順の単純化、作業の分業化を行いました。

2 これまでの作業学習（農業）の概要と課題

- (1) ねらい
 - 見通しをもち、生徒自らが主体的に作業をする態度を育てる。
 - 作業用機械、農器具は実際に使われているものを使用し、農作業への意欲を高める。
- (2) 授業形態
高等部を縦割り4つのグループ（木工、クラフト、農業、食品製造）に分けている。1グループ8名程度。
- (3) 作業内容
年間を通して、農作物の育成（季節の野菜の栽培、菊の栽培、稲の栽培）
農場の整備、農作物の加工を行っている。



田車（たぐるま）で、田んぼの草取り。



田んぼの周りの防水壁除去作業。



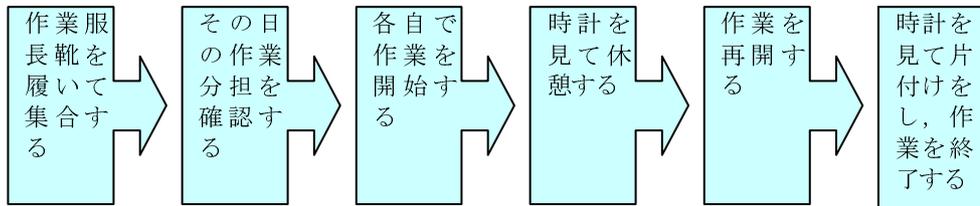
コンバインを使って、脱穀作業。

(4) 課題

- 教師の指示待ちの場面が多く、指示がないと動けなくなること。
- 活動量が少ないこと。

3 改善の様子

- 作業開始から片付け、作業終了までの一連の流れを作り、より見通しをもたせました。
- 一人一人の作業分担を明確にしました。



役割分担をホワイトボードで、短時間で確認。



マルチに穴を開け、苗を植える作業。



時計を見て行動します。



収穫後の野菜の分別作業。



落ち葉を集め、堆肥づくり。



タマネギを植える前の土壌整備。石灰まき。

4 成果と今後の課題

(1) 成果

- 作業に入るまでの一連の動きが定着しました。
- 主体的に次の作業に移ることができるようになりました。
- 指示待ちの姿が減りました。
- 分からないことを必ず聞くようになりました。

(2) 今後の課題

- 「作業評価表」を記入することで、本時の振り返りをさせ、次時の目標と気を付けることを自ら確かめる必要があります。

6 外部人材を活用したビルメンテナンス作業

広島県立広島北特別支援学校

1 改善のポイント

- (1) 外部人材を活用し、ビルメンテナンスの技術と意欲を高め、仕事としての意識、態度を育てました。

2 これまでの作業学習（ビルメンテナンス）の概要と課題

(1) 経緯とねらい

- 近年の就職状況から、サービス業への就職を目指した指導が必要であると考え、平成18年度から高等部の就職希望生徒の作業学習でビルメンテナンス作業を設定しました。指導目標を「就労に向けての意識・意欲を高め、基本的な態度や知識を身に付ける」とし、作業工程を理解して適切に道具が操作できるようになること、自主性・協調性や判断力等を育むことを目指した指導をしています。
- 平成21年度から高等部普通科に職業コースが設置されました。職業コースでは、社会的マナーを身に付け、通勤を含めた働くことへの具体的なイメージをもち、一日を通した時間管理ができるようになることを目的に、校外施設における一日作業実習（現地集合、現地解散）として旧広島県立生涯学習センターでの清掃作業を行っています。

(2) 授業形態

高等部1年1組（職業コース）8名。

(3) 作業内容

- 最初にテーブル拭きを指導します。初めに枠取りをし、拭き残しのないように丁寧に拭くことができるよう指導します。
- 次に床清掃を指導します。清掃道具（自在ほうき・水モップ）の基本的な使い方を繰り返し学習した後、教室の床を清掃します。次に窓清掃を指導します。仕上げとして、清掃する順番・分担が難しい玄関・特別教室等の清掃をします。



自在ほうきでの床清掃



水モップでの床清掃



玄関の清掃

(4) 課題

- これまでの生活経験での清掃に対するイメージが悪く、生徒の意欲が低かったため、イメージを一新し、職業としての清掃に結び付けていく必要があります。
- 教師の指導技術を高めるため、社団法人広島ビルメンテナンス協会より講師を招聘し研修を実施してきました。清掃場所に応じた効率の良い清掃方法を指導するための外部人材の活用は有効でした。今後は、生徒への指導場面に立ち会ってもらい、指導の補助をしてもらうことも必要だと考えます。

3 改善の様子—外部人材の活用による指導

- 始めに、清掃の目的はきれいにすることであり、きれいにするだけで賃金を得て仕事になるということをお話してもらいました。

実技の指導では、学校で今まで行っていた方法と違う部分もありました。例えば、水モップを洗う時、今までは柄の部分が付いたまま房糸を洗っていましたが、柄から房糸をはずして洗うやり方を教えてもらいました。このことで、より絞りやすく、固く絞ることができるようになりました。生徒たちは大変緊張しながらも、きれいにするための方法を身に付けようと意欲的に取り組んでいました。



教室隅の掃き方



水モップの使い



水モップの洗い方

4 成果と今後の課題

(1) 成果

ビルメンテナンスに従事している方の話を聞き、実技を見せてもらうことで、作業学習（ビルメンテナンス）が就職につながることを実感もてました。また、清掃手順や道具の取扱い方の確認や、不明な点の相談ができ、作業への自信をもつことができました。

(2) 課題

外部人材から直接、働く者の心構えや態度を指導してもらう機会を定期的に設け、基本的な知識・技能を習得しながら、状況や場に応じた対応ができるように指導する必要があります。

7 作品づくりから製品づくりへの転換

広島県立沼隈特別支援学校

1 改善のポイント

高等部では、平成19年度まで学年別に作業学習（木工，農業，手芸，食品加工，陶芸）を実施していました。これらの作業内容を生かしながら，作品づくりから製品づくりをする作業学習への転換を目指しました。

2 これまでの作業学習の概要と課題

(1) ねらい

作品を作り出す楽しさや達成感を味わう。体験を広げ生活の中に生かす。

(2) 授業形態

学年別。

(3) 作業内容

作業学習	作業（木工）	製品づくりの計画，制作，小物入れづくり
	作業（農業）	種まき，苗の植付け・栽培・収穫，花種まき・移植・栽培，草取り，土づくり・畑づくり
	作業（手芸）	さをり織り，マフラーづくり，レザークラフト，染色
	作業（食品加工）	お菓子づくり，一味とうがらしづくり
教科別の指導	美術	絵画（季節を題材），陶芸，紙工，木版画
	職業	工具の使い方，材料の性質
	家庭	縫製，季節の野菜・素材を使った調理，季節の果物を使ったデザートづくり

(4) 課題

ねらいは達成されましたが，自立と社会参加を目指した指導内容の再構築が必要と考えました。

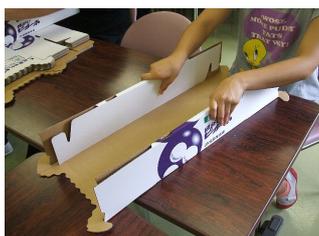
製品づくりへの転換の課題は，以下のとおりです。

- 教員の実技研修の必要性
- 雇用の社会的ニーズの把握
- 製品づくりに向けた意欲の向上

3 改善の様子

- (1) 複数学年の生徒のグループによる1日をとおした作業学習を導入しています。
(2) 作品づくりから製品づくりへの転換を図りました。作業学習（農業）では農協と連携したぶどうの箱折り作業の導入を行いました。

作業学習（木工）ではスパイスラック、プランターカバーの製作・販売。作業学習（陶芸）では生活で使う小皿等の製作・販売。農業では、販売できる箱づくり、陶芸・木工では、規格品（同じものを作る）の製作に視点をおきました。



「農業」



「木工」



「陶芸」

- (3) 平成21年度高等部入学生より同じ作業服で揃えています。
(4) 新作業種目を導入しました。

新作業種目「メンテナンス」では、プロのサービスを提供するという目標にしており、入室の際の挨拶や動作、服装等の身だしなみ、清掃の技術の向上、自らを振り返ったり、相互に評価したりして反省すること等を実施しています。



スクイジールの技術向上



乾式モップの技術向上



入室の際の挨拶練習

4 成果と今後の課題

- (1) 成果

製品を生産し、販売することで働く意欲が高まりました。清掃活動は、どこの就職先でも必要な技能であり、職場実習等で高い評価を受けるなど、生徒の進路希望の実現に結び付いています。また、作業服の導入により、「作業学習を行う」という気持ちの切替えがスムーズになり、意識の高まりが見られます。

- (2) 今後の課題

作業に必要な知識・技能や製品づくりの必要性等について研修し、教員及び生徒の意識向上を目指します。また、地域産業見学、卒業生就職先見学、卒業生の話を聞く会等を通じて卒業後の生活のイメージを具体化し、自己選択できるように取り組みます。

8 自主性と社会的スキルを育てる作業学習の取組

広島県立黒瀬特別支援学校

1 改善のポイント

- (1) 環境整備（準備・片付け）を生徒が自ら行い、自主的に作業を進めていくことを目指しました。
- (2) 作業学習を生徒が主体的に取り組むために、製品試作コンペを行い、より完成度の高い製品作りを目指しました。
- (3) より高度な社会的スキル等を習得するために、場面を設定した挨拶・態度等の練習を行いました。

2 これまでの作業学習（高等部）の概要と課題

- (1) ねらい
 - 働く意義について理解し、職業生活全般に必要な態度を身に付けます。
 - 作業工程を理解し、分担された自分の役割に責任をもって作業を行うようにします。
- (2) 授業形態
 - 平成20年度は、農業班、木工・窯業班、手工芸班に分かれて作業学習を行っていました。
 - 平成21年度からは、農業班、木工・窯業班、清掃・食品加工班、手工芸班に分かれて作業学習を行っています。班分けは、生徒が得意とする作業種目を基本にしています。
- (3) 作業内容

農業班	肥料作り・畑作り・育苗・定植・収穫
木工・窯業班	CDボックス作り・蓋付き食器作り
清掃・食品加工班	校内清掃・ジャム・クッキー作り
手工芸班	さをり織り・刺繍・紙漉き・小物作り

- (4) 課題
 - 準備や片付け等を含めた役割分担を行っていましたが、就業体験・職場実習等で不在の生徒があると、準備や片付け等の活動が教師の役割になっていました。
 - 作業学習班の担当教師が年間計画や指導計画を立て、教師の指示によって製品や生徒の作業内容が決まり、教師中心の作業学習になっていました。
 - 職業生活で必要とされる挨拶や場に応じた応答等の社会的スキルの指導が不十分であったため、就業体験・職場実習に行き、挨拶や応答がうまくできない生徒が多くいました。

3 改善の様子

(1) 準備物カードの活用 (手工芸班)

準備物カードをあらかじめ配置する場所に置くことで、生徒がカードを見て準備(片付け)をするようになりました。



(2) 製品の試作コンペ (木工・窯業班)

生徒自身が試作品を事前に作り、話し合いによって製品を決定しました。自分たちのアイデアが活かされることで、より良い製品作りに向けての意欲が高まりました。



(3) 挨拶のトレーニング

ジョブサポートティーチャーの指導により、挨拶や応答の練習を、毎朝同じ時間に行い、就業体験・職場実習で自信をもってできるようになりました。



- ① まず、一人ずつ挨拶をしていきます。
- ② 全員が挨拶し終わると二人一組になり、「トイレに行きたい時」「外出から帰ってきた人に対して」等、場面を設定した応答をします。
- ③ 最後にジョブサポートティーチャーが評価をします。

4 成果と今後の課題

(1) 成果

- 生徒が自主的に休憩時間から準備をし、チャイムと同時に作業学習が始められるようになりました。また、毎回、作業に必要な分量だけ材料を準備することで作業環境が整い、作業をしやすくなりました。
- 挨拶のトレーニングは発声練習にもなっており、明瞭な声で応答ができるようになりました。また、職場実習の際、挨拶等がスムーズにできるようになりました。

(2) 今後の課題

- 特別教室以外の場所でも作業学習を実施することができる新しい作業種目を開発する必要があります。
- 製品の品質向上を図るために専門的な技術をもつ外部人材を活用し、指導方法の改善を図る必要があります。

9 関連をもたせた作業学習

作業種目に関連をもたせて、より効果的に展開している例があります。

農園芸で栽培した花を陶芸で製作した鉢に入れて販売したり、食品加工でつくったパンを、喫茶サービスで提供しているなどの例があります。

関連をもたせた作業学習～農耕と食品加工

農耕は、計画的かつ効果的な実施が比較的難しい作業種目とされている。その理由としては、反復作業が少ないこと、当日の作業実施の可否や収穫量が天候に左右されることが挙げられる。

沼隈特別支援学校では、農耕でとうがらしを栽培・収穫し、冬場や雨天時の作業として食品加工「一味とうがらし」づくりを実施している。

導入当初は、冬場や雨天時の作業の確保として実施し、工夫を重ねた。「包丁できざむ」「手で種を取り除く」「ミキサーにかける」「計量する」「容器に詰める」「蓋をすする」「ラベルを貼る」の7つに作業工程を分解した。そして、工程ごとに班編成を行い、第3学年の生徒が班長になって、班の作業を取りまとめている。

公開授業研究では、1個100円で校内販売され、竹で製作された容器、味も好評であった。



種を取り除き、計量する。



計量して、容器に詰める。



ラベルを貼る。



「一味とうがらし」の完成。